

付属資料・目次

特記仕様書（抜粋）	特 1
現場説明付記事項	1
案内図・構内配置図	2
ピット伏図（改修前後）	3
1階平面図（改修前後）	4
2階平面図（改修前後）	5
3階平面図（改修前後）	6
4階平面図（改修前後）	7
5階平面図（改修前後）	8
屋上階平面図（改修前後）	9
外構平面図（改修前）	10
外構平面図（改修後）	11
立面図(1)（改修前後）	12
立面図(2)（改修前後）	13
立面図(3)（改修前後）	14

京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）改修その他工事

I 工事概要

1. 工事場所 京都府京都市左京区吉田橋町（京都大学医学部構内）
2. 完成期限 令和9年3月31日（水曜日）
ただし、財政法のためによる承認を得た場合は、令和9年5月14日（金曜日）まで延長する予定である。

3. 建物概要

建物名称	医学部C棟		
工種	模様替		
構造	RC造		
階数	地上5階		
建築基準法による	建築面積 (㎡)	893	
	延べ面積 (㎡)	3,854	
消防法施行令別表第一の区分	(7)		
改修面積 (㎡)	3,854		
備考			

4. 工事種目

・印の付いたものが対象工事種目

工事種目	建物別及び屋外		
	医学部C棟		屋外
○ 2 仮設工事	一式		一式
○ 3 防水改修工事	一式		
○ 4 外壁改修工事	一式		
○ 5 建具改修工事	一式		
○ 6 内装改修工事	一式		
○ 7 塗装改修工事	一式		
・ 8 耐震改修工事			
○ 9 環境配慮改修工事	一式		
○ 昇降機設備工事	一式		
○ 電気設備工事	別途発注		
○ 機械設備工事	別途発注		
○ 排水工事			一式
○ 舗装工事			一式

5. 指定部分 ○無 ・有 対象部分（ ）
指定部分工期 令和 年 月 日（曜日）
6. 概成工期 ○無 ・有 令和 年 月 日（曜日） (1.2.1) [1.2.1]

II 工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 国立大学法人京都大学契約事務取扱要領（平成16年4月1日財務担当理事裁定制定）別記1の工事請負契約基準、現場説明書、図面 枚及び本特記仕様書 枚によるほか、下記仕様書等のうち、○印の付いたものを適用する。
 - 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「標準仕様書」という。)
 - 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(令和7年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
 - 文部科学省建築工事標準仕様書(特記基準)(令和7年版)(以下「文科仕様書」という。)
 - 文部科学省建築改修工事標準仕様書(特記基準)(令和7年版)(以下「文科改修仕様書」という。)
 - 工事写真撮影要領(令和5年9月)
 - ・ 建築物解体工事共通仕様書(令和4年版)
 - 建築工事標準詳細図(令和4年版)

2. 特記仕様

- (1) 本特記仕様書の表記
 - 1) 項目は、・印の付いたものを適用する。
 - 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と※印の付いた場合は、共に適用する。
 - 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の[]内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の(())内表示番号は、文科仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
特記事項に記載の[[]]内表示番号は、文科改修仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
 - 4) G印は、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（平成12年法律第100号）に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（令和7年1月28日変更閣議決定）」に定める特定調達物品における判断の基準（特定調達品目「公共工事」においては表1中の品目ごとの判断の基準）を満たすものを示す。

項目	特記事項																				
1 各章共通事項	<p>○ 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。</p> <p>○ 風圧力 風速 (Vo= 32 m/s) 地表面粗度区分 (・ I ・ II ・ III ・ IV) ○ 積雪荷重 平成12年5月31日建設省告示第1455号における区域 別表 (32)</p> <p>(1.3.3~4) [1.3.3~4]</p> <p>この工事現場に下記いずれかの資格を有する電気保安技術者を選任する。</p> <table border="1"> <tr> <th>項目名</th> <th>電気保安技術者</th> </tr> <tr> <td>1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>6 第1種電気工事士の資格を有する者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>8 第2種電気工事士以上の資格を有する者</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者</td> <td>-</td> </tr> </table> <p>工事用電力を構外から引き込む場合は、法令に基づく有資格者を定め、監督職員に報告する。</p>	項目名	電気保安技術者	1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○	2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○	3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○	4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○	5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○	6 第1種電気工事士の資格を有する者	○	7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○	8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	○	9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	-
項目名	電気保安技術者																				
1 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者	○																				
2 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○																				
3 高等学校又はこれらと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者	○																				
4 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者	○																				
5 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者	○																				
6 第1種電気工事士の資格を有する者	○																				
7 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者	○																				
8 第2種電気工事士以上の資格を有する者	○																				
9 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学（実験を含む）に関する科目を修めて卒業した者	-																				
○ 施工条件	<p>この工事現場では、次の施工条件による。 (1.3.5) [1.3.5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 構内の行事等により作業が制限されることがあるので、監督職員と協議の上、工程を決定すること。 ・ 本工事建物周囲は研究棟や講義棟が立地することを十分認識し、周辺への影響に配慮すると共に、安全にも十分に配慮すること。 ・ 工事用地および工事用地周辺においては、適切な養生・清掃を行うこと。 ・ また、工事車両の搬出入時などに周辺道路等を汚損、破損等した場合は速やかに対応すること。 ・ 工事用地は、工事完成時に原状に復帰して返還すること。 ・ 臭気が発生する作業は、周囲に対して影響が少ない工法を採用すること。 ・ 穿孔工事等の騒音・振動・粉塵の発生する作業は、低騒音・低振動・低粉塵工法を採用すること。 ・ その他建物内や敷地周囲に影響があると想定される作業については、監督職員と協議を行い進めること。 ・ 工事車両の通行時は、交通整理員を配置し安全対策を講じること。 																				

工事名	京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）改修その他工事		図面番号
図面名称	特記仕様書（抜粋）	縮尺	設計日
		-	令和8年7月
			特 1

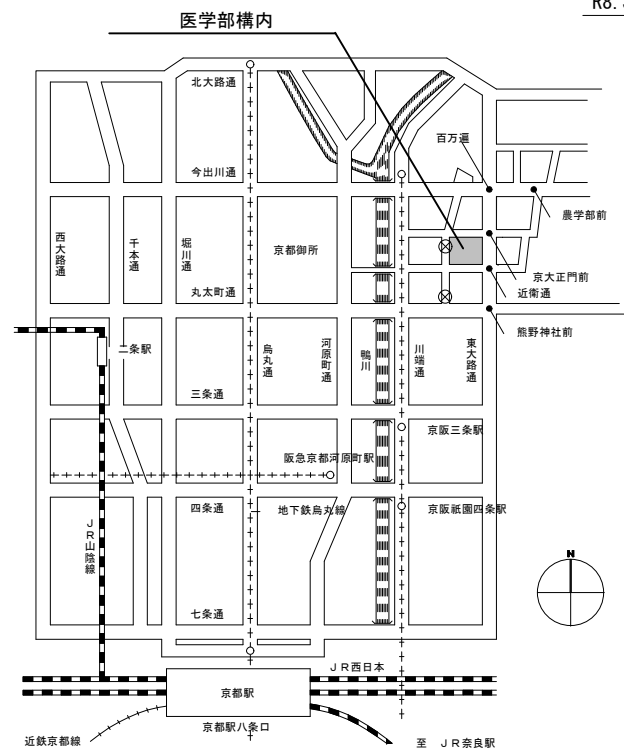
現場説明付記事項

1 工事施工上の注意事項

- 1) 車両通行経路は、図示の通りとし監督職員と協議の上、誘導員等を配置し、交通整理を行うこと。
工事車両は周辺道路上での違法駐車は行わないようし、また路上に縦列待機させることも行わないこと。
- 2) 工事用地は図示の範囲とし、危険防止のため関係者以外の出入りができないようにすること。また、工事関係車両（通勤車を含む）は工事用地内に駐車することを原則とし、構内の駐車エリア、道路及び空地への駐車は行わないこと。
- 3) 学校行事・近隣地区行事を考慮して工事計画を立てること。
以下の日程は試験及び行事予定日のため、作業中止日として、工事の計画を立てること。
・令和8年11月20日、11月21日、11月22日、11月23日（11月祭）
・令和8年12月12日（特色入試）
・令和9年1月16日、1月17日（大学共通テスト）
・令和9年1月23日、1月24日（追試験）
・令和9年2月25日、2月26日（一般入試）
その他、学内の試験等による作業の中止については、監督職員と協議すること。
- 4) 撤去工事その他で大きな音、振動等が生じる場合は、あらかじめ監督職員に日時を連絡し、承諾を得て工事を進めること。また、施工中の防音対策を十分に検討し行うこと。
- 5) 教職員、学生等の通行が頻繁なため、構内車両通行には徐行の徹底等、十分注意するよう指導を行うこと。
- 6) 埋蔵文化財を発見した時は、ただちに工事を中止し、監督職員の指示を受けること。
- 7) 工事場内に火災予防のため適切な量の消火器を設置するとともに、工事関係者に対し、火気等の取り扱いに十分注意するよう指導を行うこと。
- 8) 支障となる地中埋設物を発見した時は、監督職員と協議の上撤去し、適正処分すること。
- 9) 工事用地は、除草等常に良好な環境を保持すると共に工事完成時には原状に復帰して返還すること。
- 10) 同一構内の他工事の業者と連絡調整を密に行い、安全かつ円滑な工事の実施に努めること。
- 11) 作業時間は、午前8時から午後6時を原則とすること。
- 12) 構内における喫煙については、監督職員と協議のうえ、健康増進法（平成十四年法律第百三十三号）第二十五条の五に基づく受動喫煙対策を講ずること。

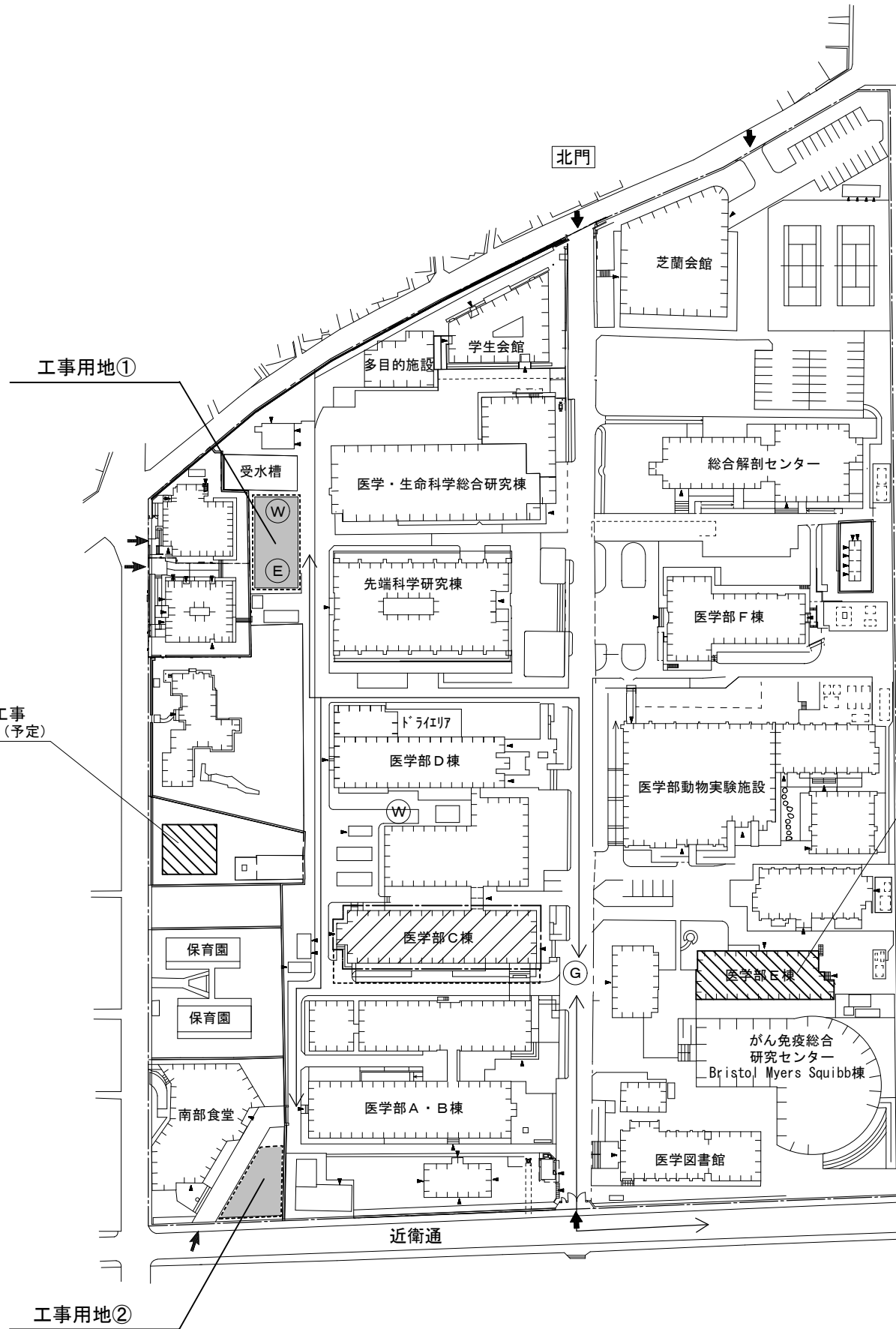
2 工事中の構内安全対策について

- 工事中の構内安全対策については、下記事項を十分留意した上、具体的な安全対策等を立案し、監督職員と協議の上、承諾を受けるものとする。
- 1) 監督職員と協議の上、構内要所に工事予告板、警戒標識板、交通規制標識板、工事表示板、案内板等を設置し、常に良好な状態に保つこと。
 - 2) 掘削時等で危険な状態となる箇所には、安全柵、工事中表示板（点滅灯付）を、夜間は保安灯及び赤色回転灯を設置し、安全な状態を確保すること。
 - 3) 構内通行の安全及び騒音防止のため工事車両は徐行すること。
 - 4) 大型車両の構内通行に際し、地中埋設物、マンホール等は必要に応じ養生を行うこと。
 - 5) 大型車両による作業の場合は必要に応じて交通整理員を追加増員し、誘導・交通整理等により構内の安全確保に努めること。
 - 6) 仮囲いの設置に伴い、構内通路の視認性が確保できない場合は、常夜灯及びコーナ一部に透明パネルを設置するなど安全確保に努めること。
 - 7) パネルゲートには電子音つき回転灯を設置するなど事故防止に努めること。



案内図

宿泊施設新営工事
R8.3月～R9.7月（予定）



構内配置図 (S=1/850)



東大路通

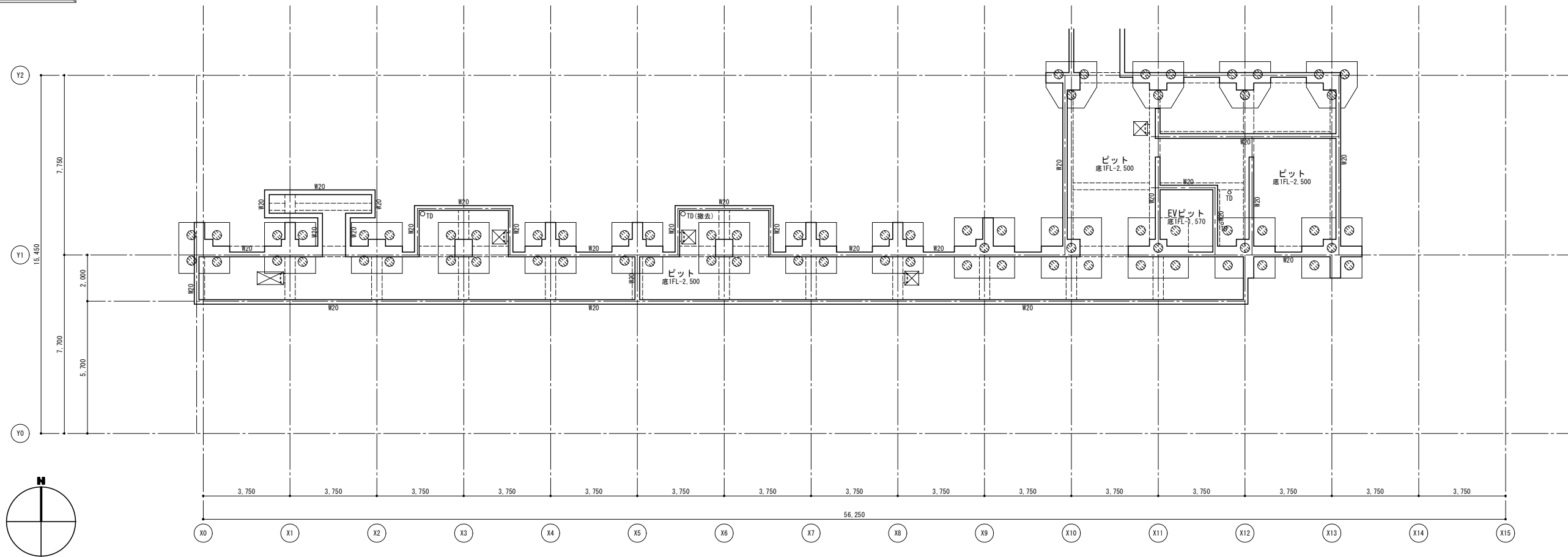
医学部E棟とりこわし工事
R8.10月～R9.1月（予定）

凡例

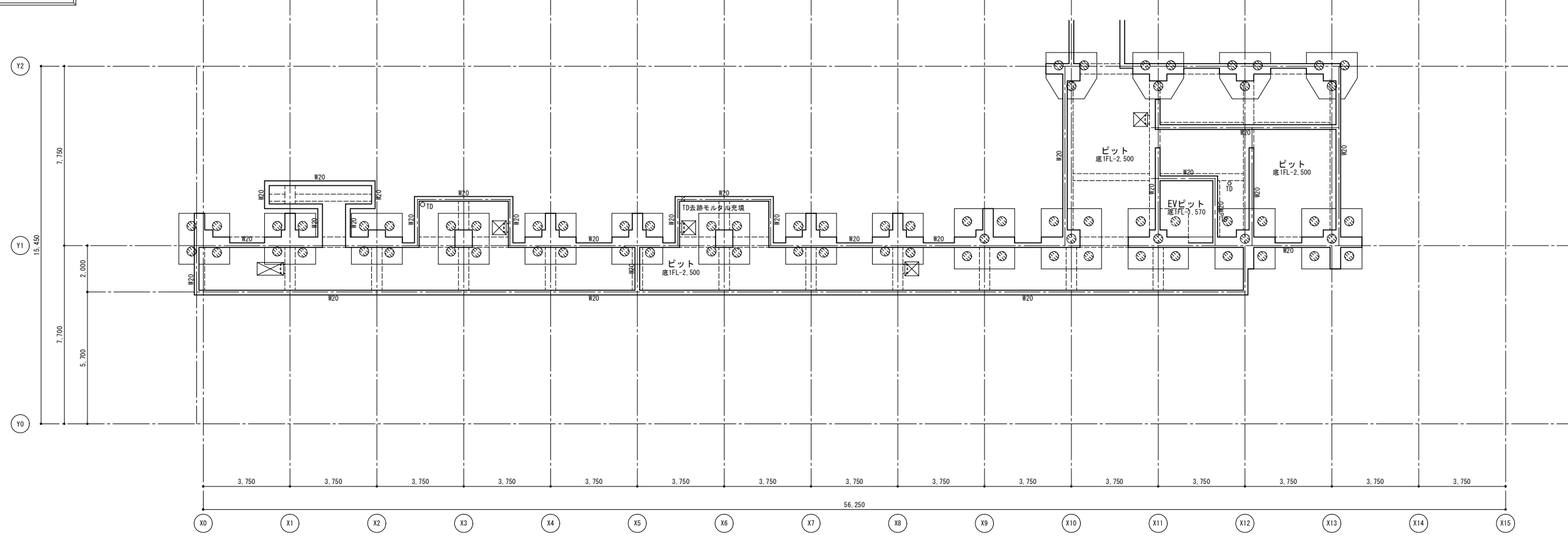
記号	内容
	本工事建物
	別途工事
	工事用地 592㎡ (工事用地① 352㎡ + 工事用地② 240㎡)
	工事車両進入経路
	ネットフェンス (H=1.8m)
	枠組足場 (防音シート張り)
	建物出入口
	交通誘導員 (大型車両搬出入時)
	水道分岐位置
	電力分岐位置

工事名	京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）改修（建築）工事		図面番号
図面名称	現場説明付記事項	縮尺	設計日
	図示		令和8年7月
			1

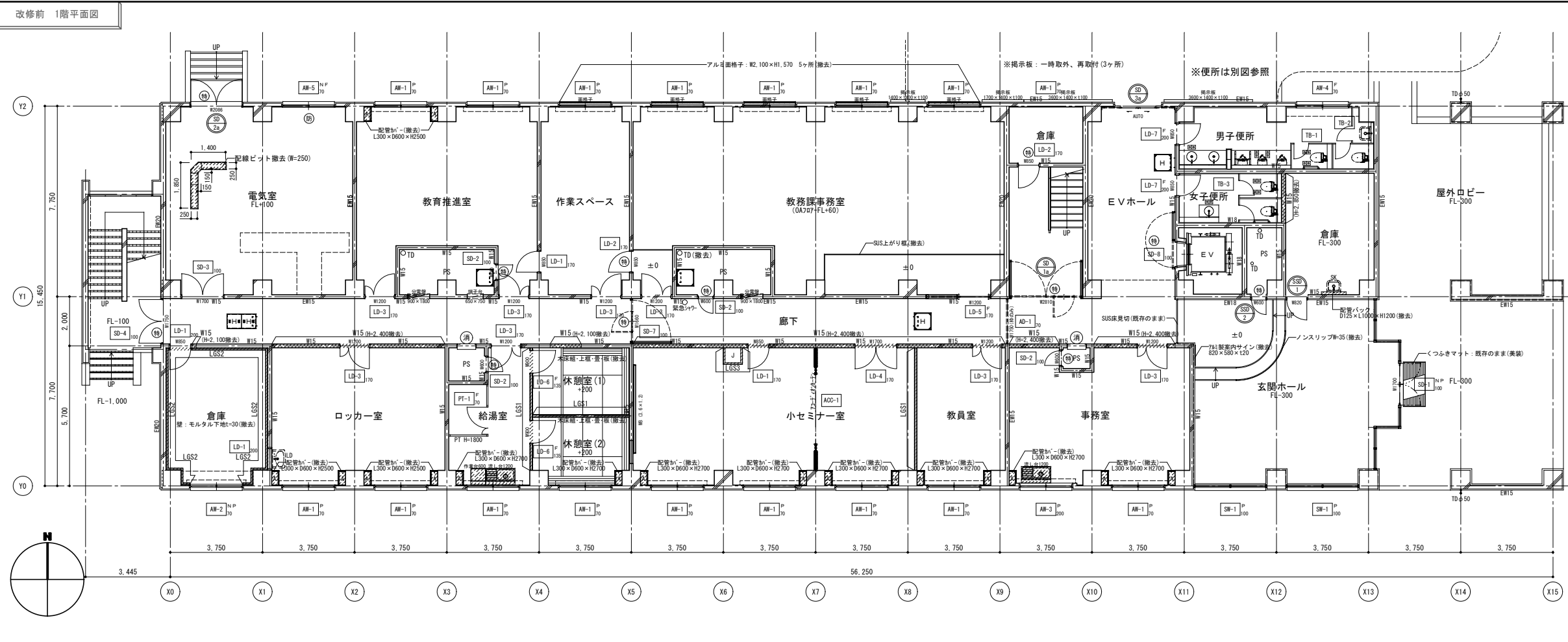
改修前 ビット伏図



改修後 ビット伏図



工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）改修その他工事		図面番号
図面名称 ビット伏図（改修前後）	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月
		3

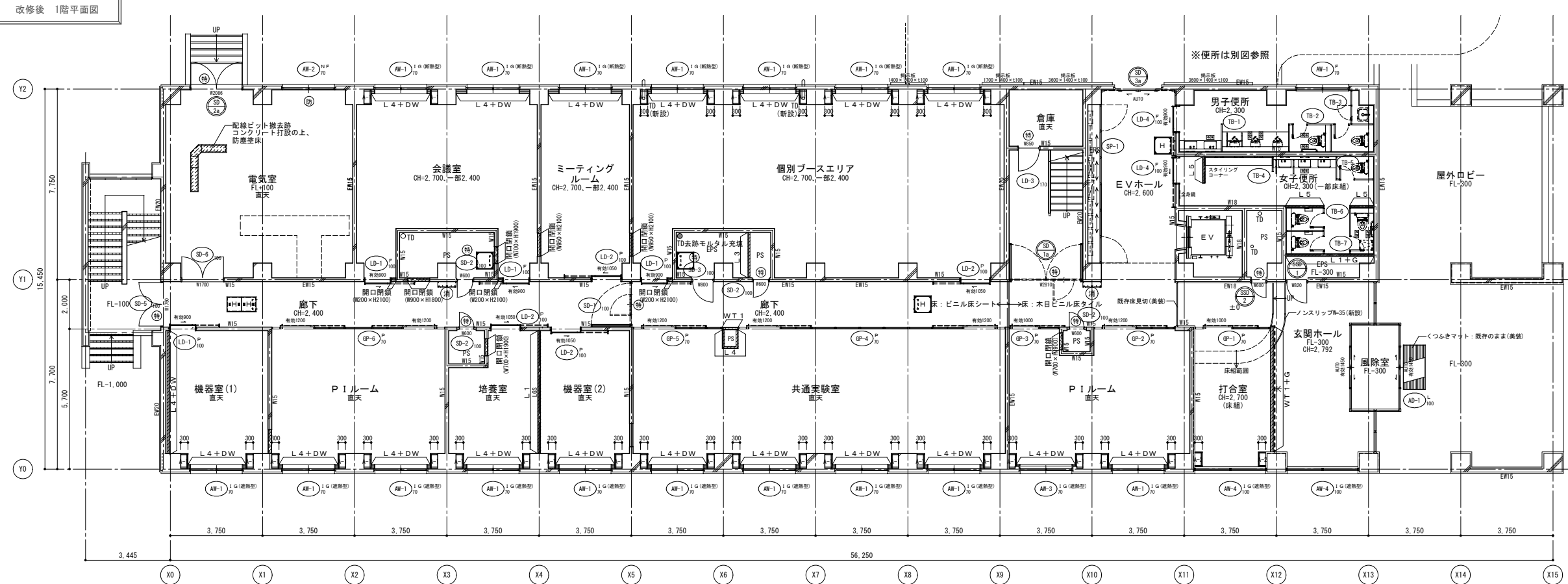


- 撤去 凡例**
- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
 - ALCはALCパネル=100+GL (工法) を示す。
 - 仕上撤去範囲を示す。
 - 部分撤去範囲を示す。
 - の範囲は工事範囲外を示す。
 - 間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。(WOは壁種別を示す。)
 - (LS1: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
 - (LS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
 - (LS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
 - (ALC: ALCパネル=100+GB-Rt12 (工法)、3x3'又は梁下まで示す。)
 - ※PS内側はALC断地とする。
 - 撤去建具を示す。(Oは特見込を示す。)
- 各室1ヶ所: 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
 各便所1ヶ所: 撤去 ビクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
 ※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
 ※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

- ※注記 明示のない限り下記による。(各階共通)**
- アスベスト混入のある材料は関係法令に準じ、適正に処理する。
 - (床: ビニル床タイル、天井: 石膏板)
 - 家具類、間仕切などの撤去跡はモルタルにて補修する。
 - 厚さが30以上になる場合は、ラス下地とする。
 - 撤去の際、見え残り残部となる部分はカット切り後、撤去する。
 - 既存部分への損傷は少なくすること。なお損傷が生じた場合は現況復旧のこと。
 - 天井仕上撤去 (隠り縁共) は、特記なき限り下地共とする。
 - 塗装工事の塗り替えは既存下地補修のこと。
 - 工事中、本工事範囲外の部分に汚損を生じた場合は原形に復旧すること。
 - 壁付、天井付備品で不要なもの (サイン・カーテンレール及びカーテンボックス等) は、本工事で撤去すること。
 - ドラフトチャンパー・実験台・ダクト類、手洗等衛生機器などの撤去跡の補修は本工事に含む。
 - 撤去後は清掃のこと。

仕器等 撤去リスト (別途工事)

階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
1	給湯室	流し台	水切付	1	1200	550	800
1	給湯室	作業台	水切付	1	600	550	630
1	小セミナー室	約什材	壁付	1	3600	100	1200
1	事務室	流し台		1	1200	550	800
1	教務課事務室	面格子	外壁取付	5	2100	20	1570



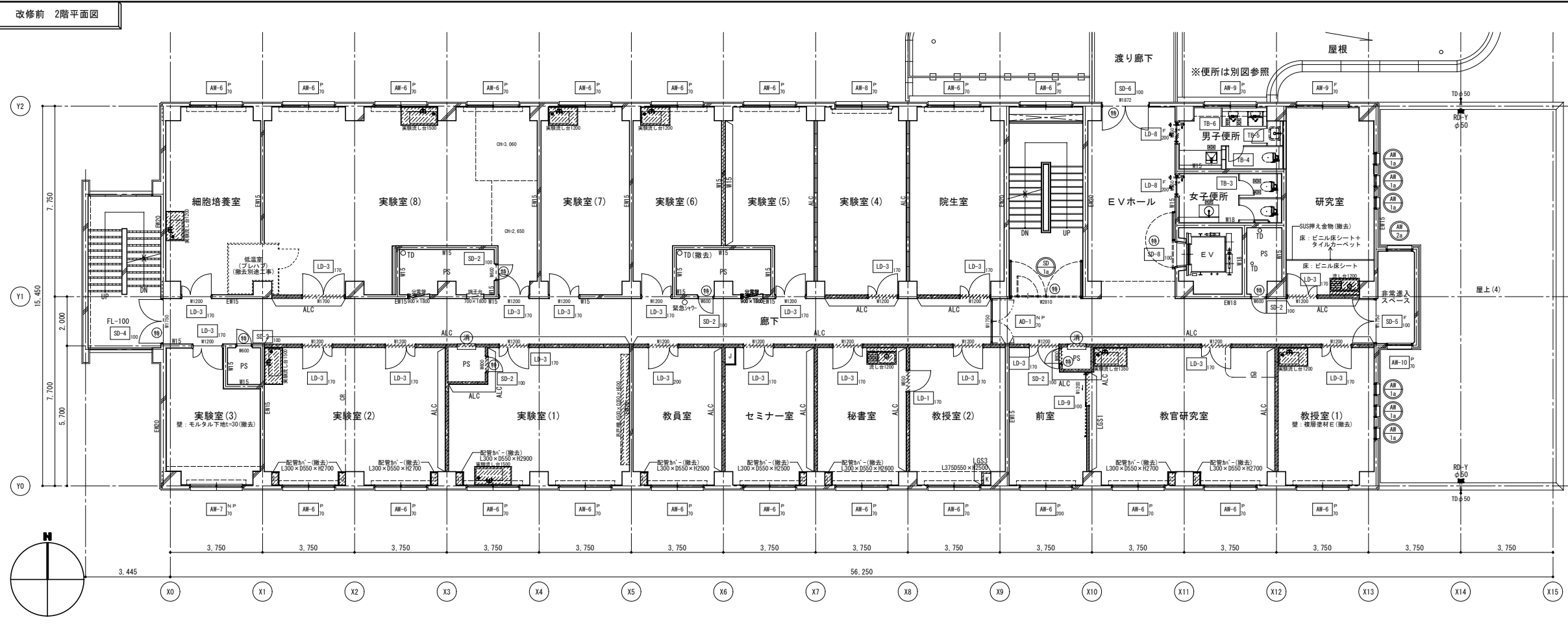
凡例 記号

凡例 記号	壁種 凡例
WB	白板 ()はW×Hの大きさを示す。 (撤去)
H	防火区画耐火壁 (1時間耐火) LS+GB-Ft=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、3x3'下まで)
CR	カーテンレール(撤去・新設)
OA	フリーアクセスフロア Hは高さを示す。
HB/OO	配管バック、片側・両側は側壁の仕上を示す。 ※新規DLはL120×H110とする。
LD	洗面化粧台 (設備工事)
消	屋内消火栓 (設備工事)
木	壁: 木調シート貼り (天井面まで)
	ALC 既存ALCパネル=100を示す。 GB-Rt12 (工法) 両面は下地調整の上、仕上とする。
RD-T	たて引き用ルーフトレン (既存のまま、美装)
RD-Y	よこ引き用ルーフトレン (既存のまま、美装)
TD	壁補: 配管用鋼管 (径は図示による) 特記なきは100φとする。(建物内は防震材)
	開口閉鎖 特記なき開口閉鎖はWT1とレスタッドはチドリ配置とし、 ガラスウール=50(24K)充填とする。
特	特定防火設備 (常時閉鎖式)
特	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖1x1m ² なし)
防	防火設備 (ガラリはFD付)

改修 凡例

- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- 改修範囲を示す。
- 部分改修範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切壁、部分 新設範囲を示す。(LOは壁種別を示す。)
- 新設建具を示す。(※はガラス種別、Oは特見込を示す。)
- 既存建具改修を示す。

※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
(排水口抜き共)



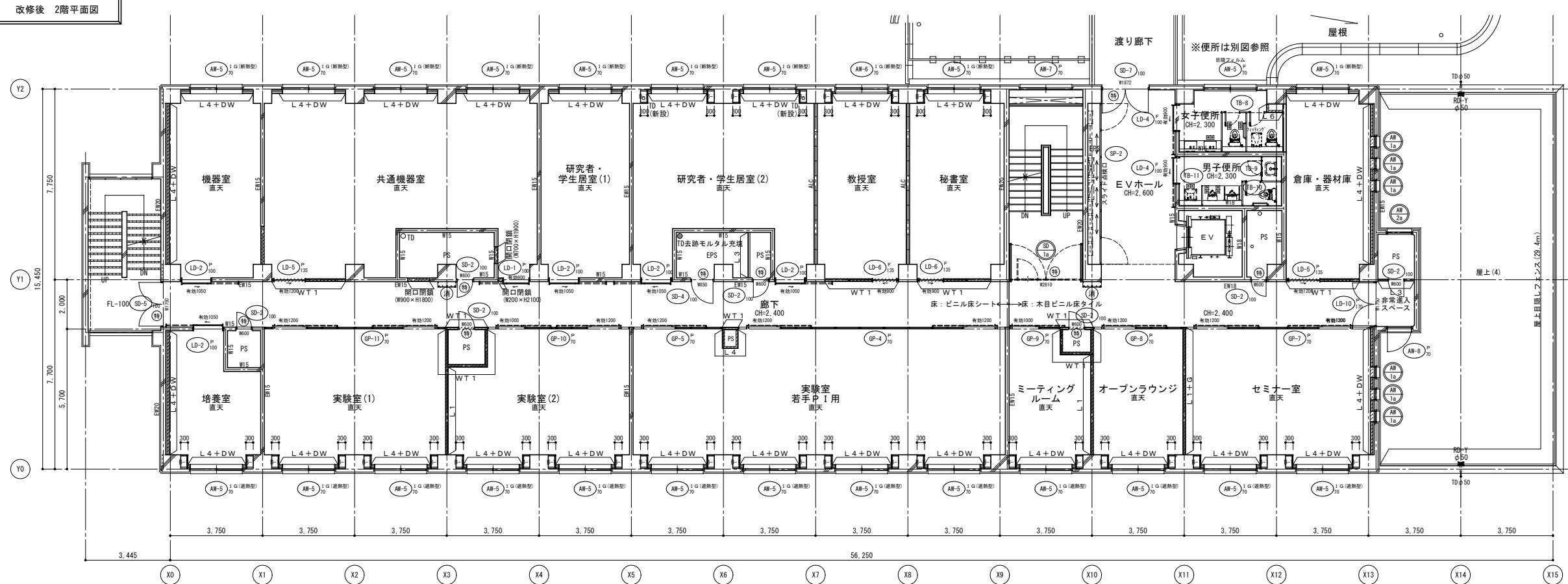
撤去 凡例

- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- 仕上撤去範囲を示す。
- 部分撤去範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切壁、部分 撤去範囲を示す。(W/Oは壁種別を示す。)
- 撤去建具を示す。(Oは特見込を示す。)

各室1ヶ所 撤去 サイン (L200×H80×アクリルt=5突出)
 各便所1ヶ所 撤去 ビクトサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
 ※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
 ※手洗い、洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

仕様等 撤去リスト (別途工事)

階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
2	細胞培養室	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(8)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(7)	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(6)	実験流し台		1	1200	750	800
2	実験室(2)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(1)	実験流し台		1	1500	750	800
2	実験室(1)	吊戸棚		1	4500	350	500
2	図書室	流し台	水切付	1	1200	550	800
2	教官研究室	実験流し台		1	1350	750	800
2	教室	実験流し台		1	1200	750	800



凡例 記号

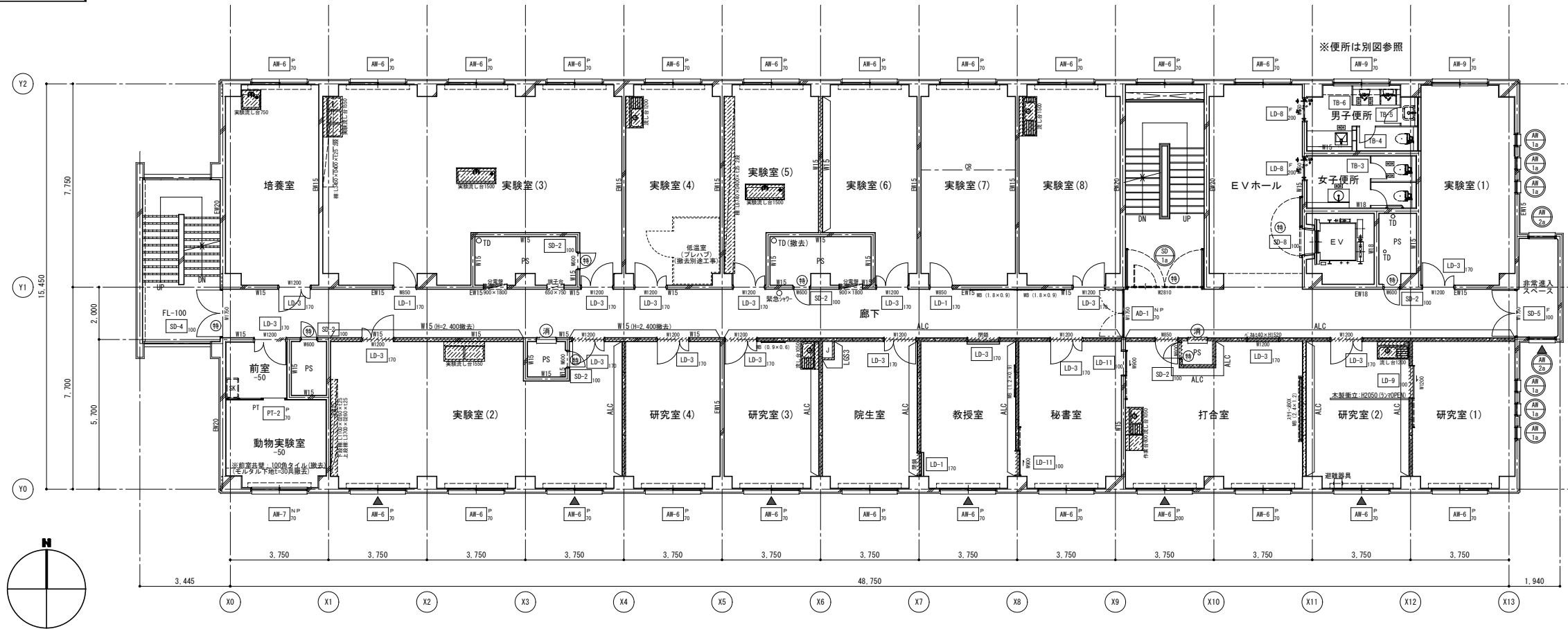
凡例 記号	仕様 凡例
WB	白板 ()はW×Hの大きさを示す。(撤去)
H	床下点検口 (600×600, 600×1,200) ※仕上のみ撤去・新設時は清掃
CR	カーテンレール (撤去・新設)
OA	フリーアクセスフロアー Hは高さを示す。
H/B/O	配管バック：片面・両面は側面の仕上を示す。 ※新機(L)はL720×H1,100とする。
LD	洗面化粧台 (設備工事)
消	屋内消火栓 (設備工事)
木	壁：木目シート貼り (天井面まで)
	開口閉鎖
RD-T	たて引き用ルーフトレン (既存のまま、美装)
RD-Y	よこ引き用ルーフトレン (既存のまま、美装)
TD	壁：配管用鋼管 (管径は図示による) 特記なきは100φとする。(建物内は防露材)
特	特定防火設備 (常時閉鎖式)
特S	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖1ヶ所-なし)
防	防火設備 (ガラスはFD付)

仕様 凡例

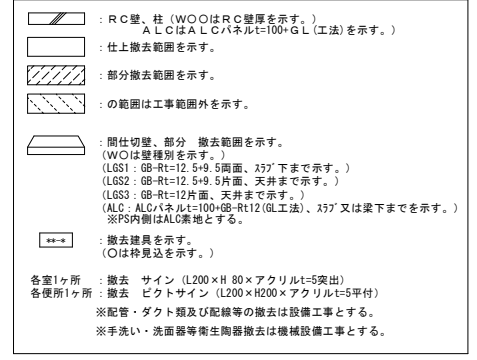
- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- 改修範囲を示す。
- 部分改修範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切壁、部分 新設範囲を示す。(L/Oは壁種別を示す。)
- 新設建具を示す。(※はガラス種別、Oは特見込を示す。)
- 既存建具改修を示す。

※手洗い、洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。(排水コア抜き共)

改修前 3階平面図



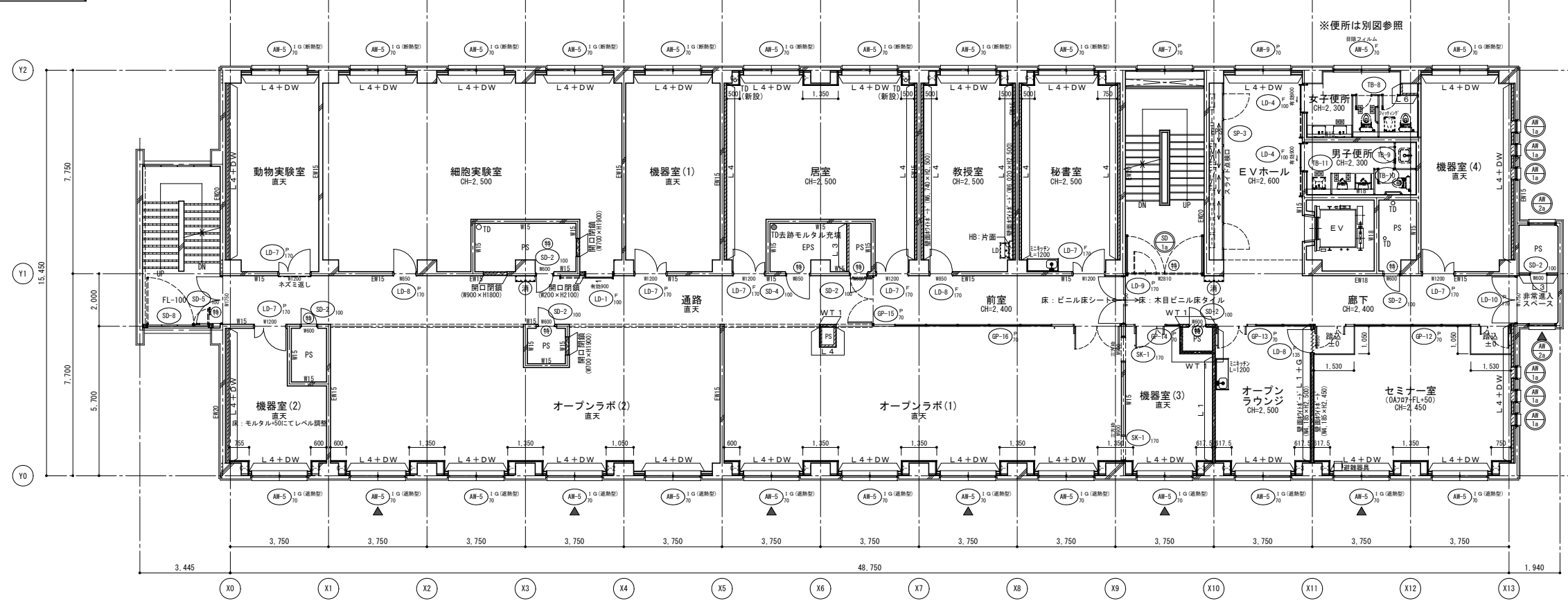
撤去 凡例



什器等 撤去リスト (別途工事)

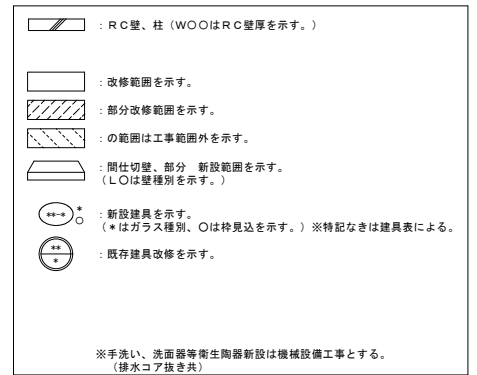
階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
3	培養室	実験流し台		1	750	750	800
3	実験室(3)	実験流し台		1	1550	750	800
3	実験室(3)	実験流し台		1	1500	600	900
3	実験室(3)	棚	t25×2段	1	3450	400	400
3	実験室(4)	流し台	水切付	1	1200	550	800
3	実験室(5)	実験流し台		1	1500	600	900
3	実験室(5)	棚	t25×2段	1	6740	400	400
3	実験室(8)	流し台	水切付	1	1500	550	800
3	実験室(2)	実験流し台		1	1550	750	800
3	実験室(2)	棚	上段	1	3700	260	t25
3	実験室(2)	棚	下段	1	1100	260	t25
3	研究室(3)	流し台	水切付	1	1050	550	800
3	研究室(3)	椅子	壁付	1	900	40	600
3	打合室	流し台	水切付	1	1050	550	850
3	打合室	作業台	水切付	1	600	550	670
3	打合室	椅子	壁付	1	2400	100	1200
3	打合室	椅子	スチール	1	2600	150	150
3	研究室(2)	流し台	水切付	1	1200	550	800
3	研究室(2)	木製衝立	ラフト	3000	55	2050	

改修後 3階平面図

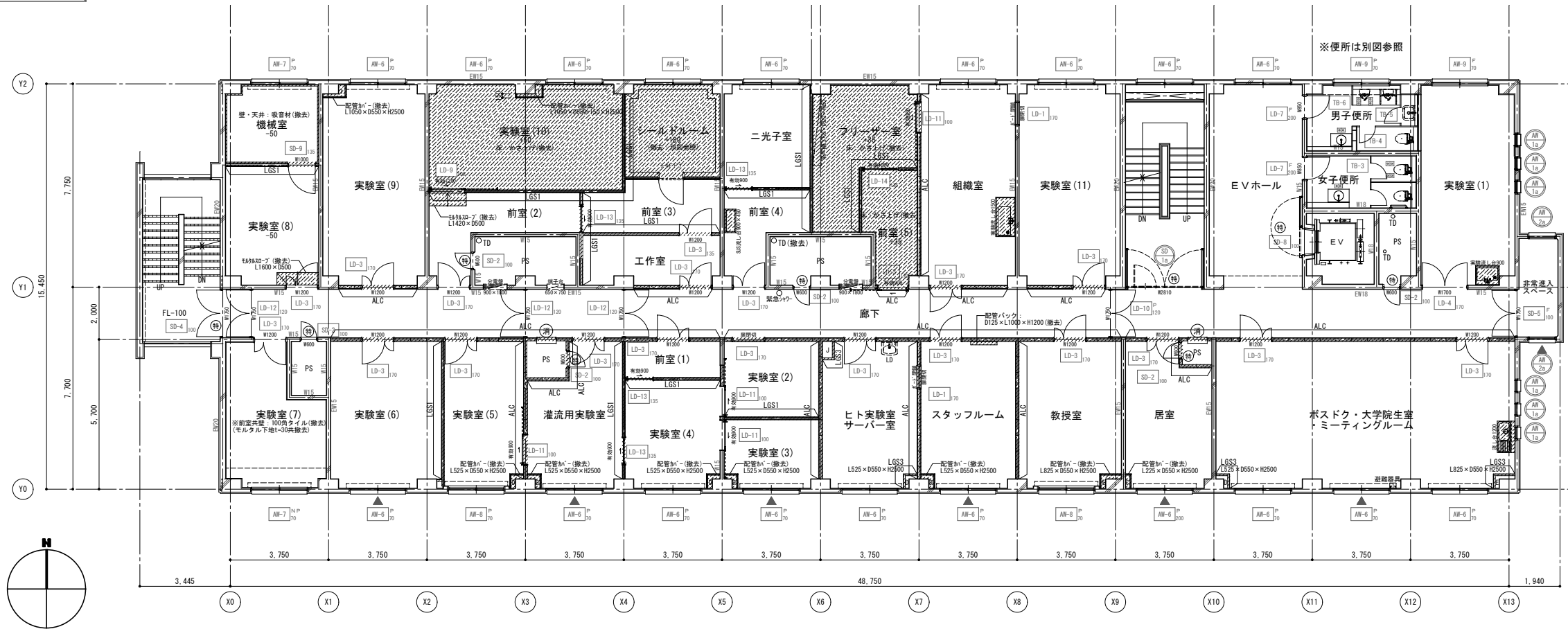


凡例・記号	仕様 凡例	
WB	白板 ()はW×Hの大きさを示す。 撤去	WT 1 防火区画耐火壁 (1時間耐火) LSS+GB-Ft=12.5+GB-Ft=12.5 (両面、337'下まで)
H	床下開口 (600×600, 600×1,200) ※(仕上のみ撤去・新設)時は清掃	L 1 LSS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、337'下まで)
CR	カーテンレール(撤去・新設)	L 2 LSS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井まで)
OA	フリーアクセスフロアー Hは高さを示す。	L 3 LSS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (両面、337'下まで)
HB: OO	配管パック、片面、両面は側面の仕上を示す。 ※新規LDにはL120×H1,100とする。	L 4 LSS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井まで)
LD	洗面化粧台(設備工事)	L 5 LSS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (両面、天井まで)
消	屋内消火栓(設備工事)	L 6 LSS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (片面、天井まで)
木	壁・木製シート貼り (天井まで)	W15 コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
		ALC 既存ALCパネルt=100を示す。 GB-Rt12(GL工法)両面は下地調整の上、仕上とする。 L O+Gは、ガラスw=50(24K)充填とする。
RD-T	たてりき用ルーフトレ(既存のまま、美装)	開口部 特記なき開口部はWT 1とLスタッドはチドリ配置とし、 ガラスw=50(24K)充填とする。
RD-Y	よこりき用ルーフトレ(既存のまま、美装)	DW 壁・現場養生用ウレタンフォーム吹付t=50 最上層スラブ: 既存フォームポリスチレンt=25打込 (アンカー撤去後はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD	壁紙: 配管用鋼管(径は図示による) 特記なきは100とする。(建物内は防露材)	
特	特定防火設備 (常時閉鎖式)	E 電気錠
特S	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖ありなし)	▼ 「非常用進入口代わる窓」の標示
防	防火設備 (ガラリはFD付)	回 点字紙を示す。(撤去・新設)

改修 凡例



改修前 4階平面図



撤去凡例

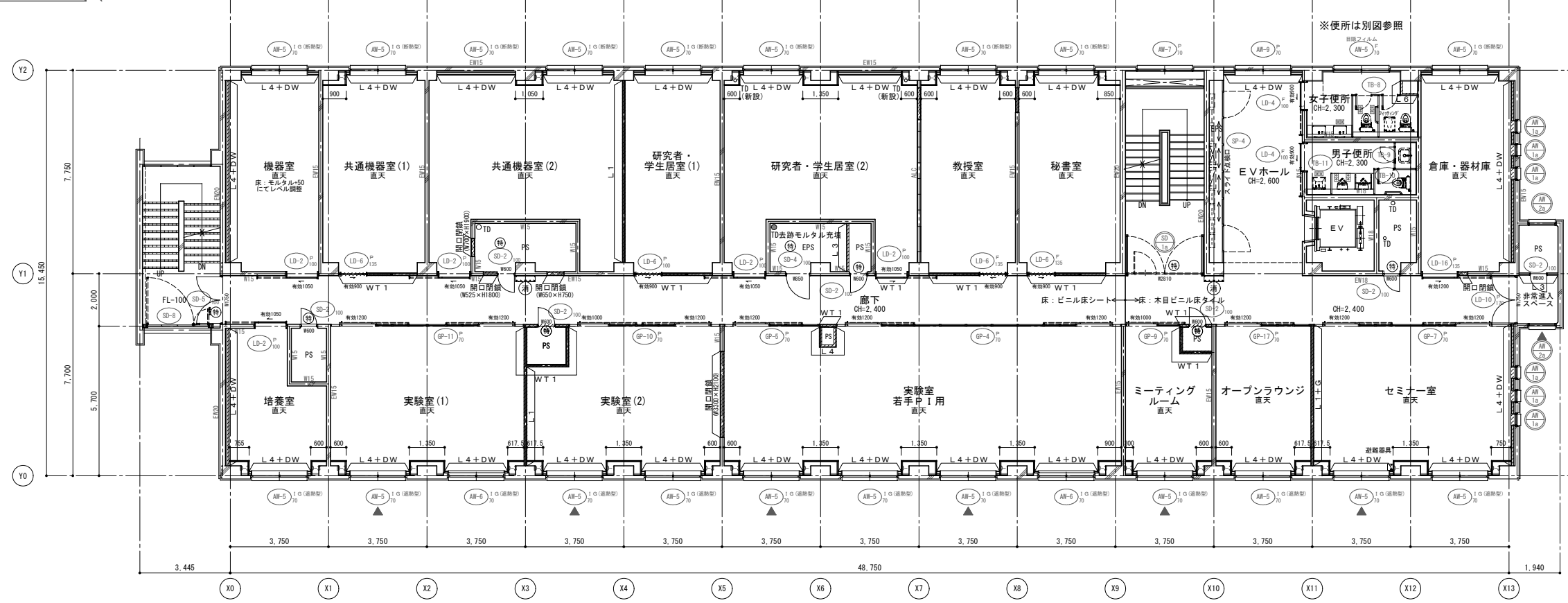
- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- ALCはALCパネルt=100・GL(工法)を示す。
- 仕上撤去範囲を示す。
- 部分撤去範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切り壁、部分撤去範囲を示す。(L/Oは壁種別を示す。)
- (L/S1: 6B-Rt=12.5+9.5片面、337'下まで示す。)
- (L/S2: 6B-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
- (L/S3: 6B-Rt=12.5片面、天井まで示す。)
- (ALC: ALCパネルt=100+6B-Rt12(GL工法)、337'又は梁下まで示す。)
- ※内断はALC床地とする。
- 撤去建具を示す。(○は特見込を示す。)

各室1ヶ所 : 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
 各便所1ヶ所 : 撤去 ビックサイン (L200×H200×アクリルt=5平付)
 ※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
 ※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

什器等 撤去リスト (別途工事)

階数	部屋名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
4	前室(4)	SUS流し台		1	900	450	830
4	リフト室	吊戸棚		1	2700	320	650
4	組機室	実験流し台		1	1500	750	800
4	実験室(1)	実験流し台		1	900	750	800
4	ホスト室 大学院生室	流し台	水切付	1	1200	550	800

改修後 4階平面図



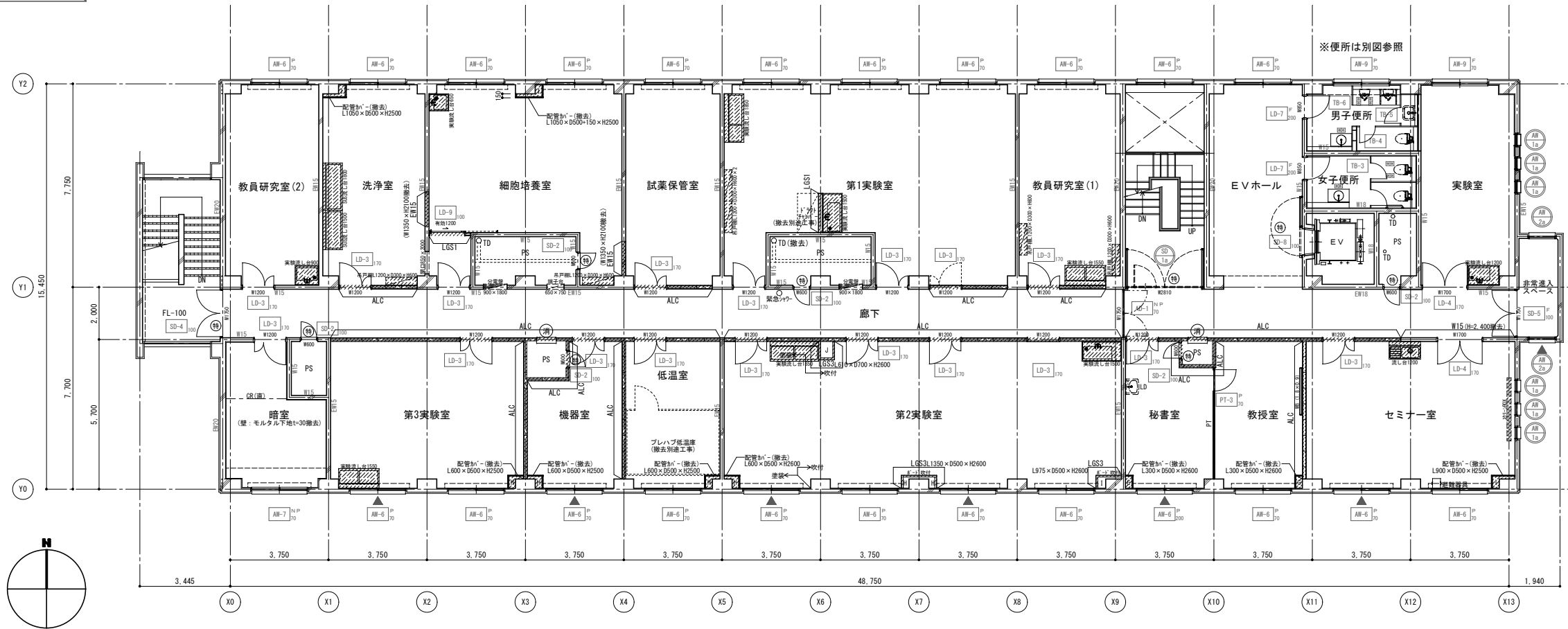
凡例、記号	壁種 凡例
WB	白板 ()はW×Hの大きさを示す。
WB	防火区画耐壁 (1時間耐火)
WB	(撤去)
H	防火区画耐壁 (1時間耐火)
H	L/S+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、337'下まで)
H	床下全開口 (600×600、600×1,200)
H	※(仕上のみ撤去・新設) 特は清掃
CR	カーテンレール(撤去・新設)
CR	L2 L/S+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、天井まで)
OA	フリーアクセスフロア Hは高さを示す。
OA	L3 L/S+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、337'下まで)
HB: OO	配管パック 片面、両面は側面の仕上を示す。
HB: OO	※新規DにはL120×H1,100とする。
LD	洗面化粧台 (設備工事)
LD	L5 L/S+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (両面、天井まで)
消	屋内消火栓 (設備工事)
消	L6 L/S+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (片面、天井まで)
木	壁: 木シート貼り (天井面まで)
木	W15 コンクリート壁(数値は厚み)を示す。
	ALC 既存ALCパネルt=100を示す。
	6B-Rt12(GL工法)両面は下地調整の上、仕上とする。
	L+O+Gは、ガラスウールt=50(24K)充填とする。
RD-T	たて引き用ルーフレン(既存のまま、美装)
RD-T	特記なき開口断面積はWT1とスリットはチドリ配置とし、
RD-T	ガラスウールt=50(24K)充填とする。
RD-Y	よこ引き用ルーフレン(既存のまま、美装)
RD-Y	壁: 現場養生後ウレタンフォーム吹付t=50
RD-Y	最上層スラブ下: 既存フォームポリスチレンt=25打込
RD-Y	(アンカー撤去跡等はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD	壁種: 配管用鋼管 (径は図示による)
TD	特記なきは100とする。(建物内は防露材)
特	特定防火設備 (常時閉鎖式)
特	E 電気錠
特	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖ありなし)
特	特記なきは「非常用進入口代わる窓」の標示
防	防火設備 (ガラリはFD付)
防	点字舗装を示す。(撤去・新設)

改修凡例

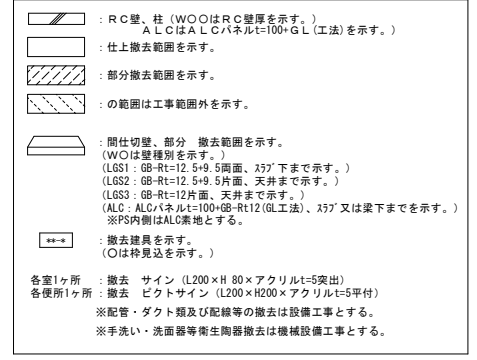
- RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
- 改修範囲を示す。
- 部分改修範囲を示す。
- の範囲は工事範囲外を示す。
- 間仕切り壁、部分新設範囲を示す。(L/Oは壁種別を示す。)
- 新設建具を示す。(※はガラス種別、○は特見込を示す。)
- ※特記なきは建具表による。
- 既存建具改修を示す。

※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
 (排水コア抜き共)

改修前 5階平面図



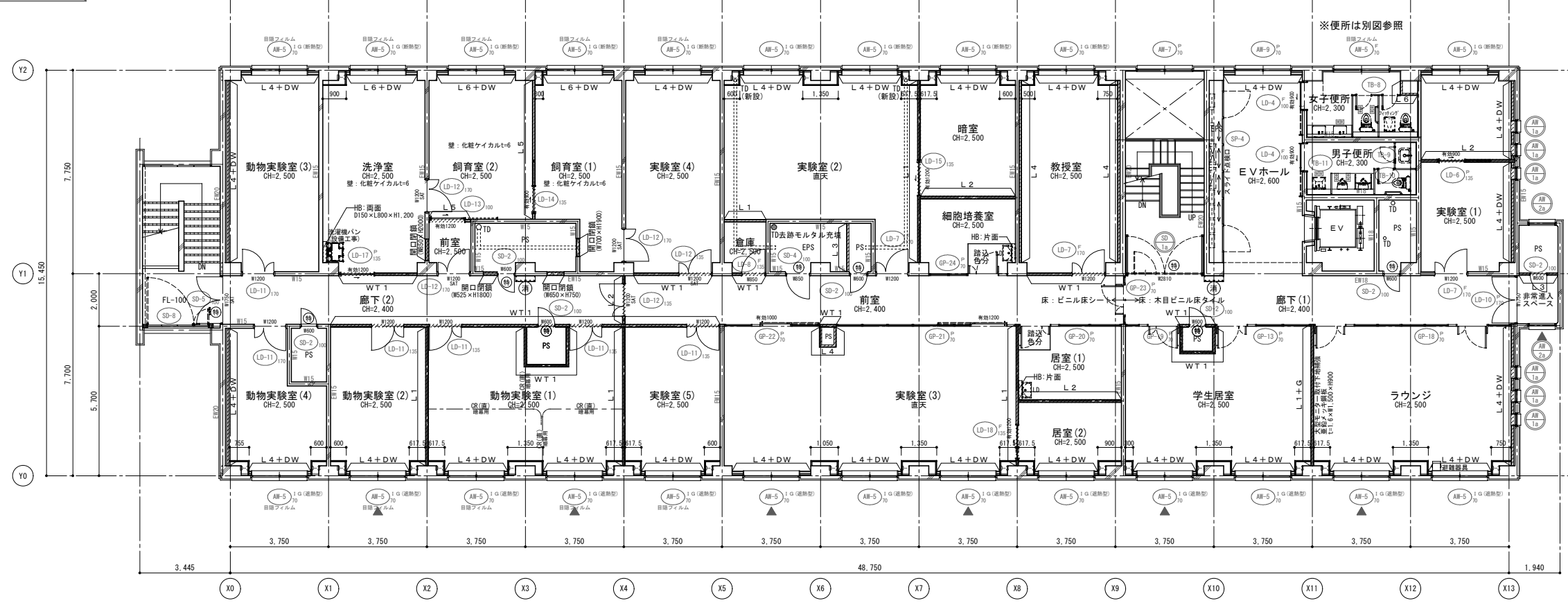
撤去 凡例



什器等 撤去リスト (別途工事)

階数	部室名	品名	特記事項 (その他)	数量	サイズ		
					W	D	H
5	教員研究室 (2)	実験流し台		1	900	750	800
5	洗浄室	SUS流し台		1	1500	750	600
5	洗浄室	SUS流し台		1	1800	750	800
5	洗浄室	吊戸棚		1	1300	300	600
5	細胞培養室	実験流し台		1	650	750	800
5	細胞培養室	吊戸棚		1	1200	300	600
5	第1実験室	実験流し台		1	1850	750	800
5	第1実験室	実験流し台		1	1500	750	800
5	第1実験室	吊戸棚		2	1200	300	600
5	教員研究室 (1)	実験流し台		1	1550	750	800
5	教員研究室 (1)	吊戸棚		2	1200	300	600
5	実験室	実験流し台		1	1200	600	800
5	第3実験室	実験流し台		1	1550	750	800
5	第2実験室	実験流し台		1	1850	750	800
5	第2実験室	実験流し台		1	1500	750	800
5	教室	約18'×1'	壁付	1	1800	40	900
5	セミナー室	流し台	水切付	1	1200	550	800
5	セミナー室	ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｽﾀﾝﾄﾞ		1	2400	150	150

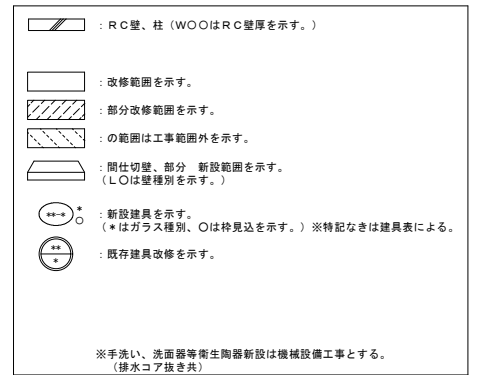
改修後 5階平面図



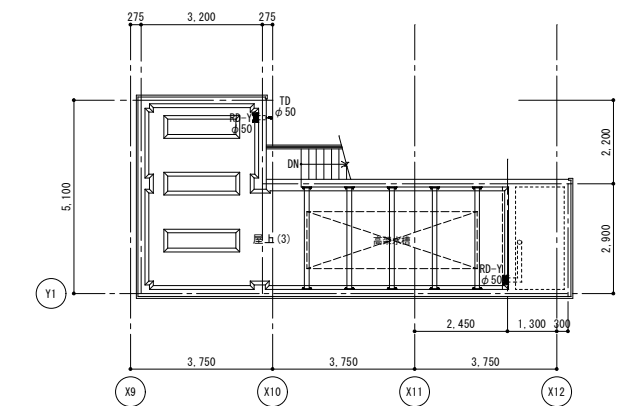
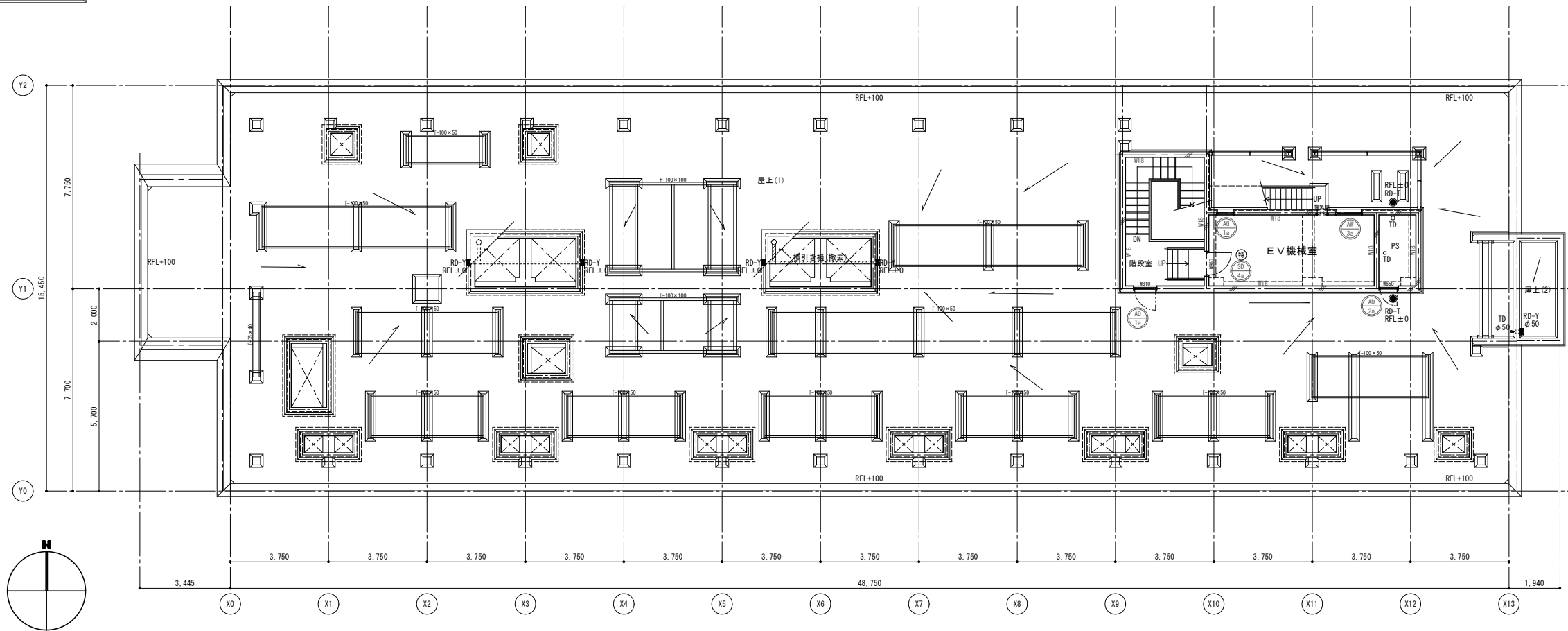
凡例 記号

凡例 記号	壁種 凡例
WB	白板 (WはW×Hの大きさを示す。撤去)
H	防火区画耐火壁 (1時間耐火) LSS+GB-Ft=12.5+GB-Ft=12.5 (両面、ｽﾌﾟﾗ下まで)
CR	カーテンレール (撤去・新設) L2 LSS+GB-Rt=12.5+GB-Rt=12.5 (両面、ｽﾌﾟﾗ下まで)
OA	フリーアクセスフロアー Hは高さを示す。 L3 LSS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (両面、ｽﾌﾟﾗ下まで)
HB: OO	配管バック、片面、両面は側面の仕上を示す。 ※新規DはL120×H1100とする。 L4 LSS+GB-Rt=9.5+GB-Rt=12.5 (片面、天井面まで)
LD	洗面化粧台 (設備工事) L5 LSS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (両面、天井面まで)
消	屋内消火栓 (設備工事) L6 LSS+GB-Rt=12.5+化粧材t=6 (片面、天井面まで)
木	壁: 木シート貼り (天井面まで) W15 コンクリート壁 (数値は厚みを示す。)
	ALC 既存ALCパネルt=100を示す。 GB-Rt12 (GL工法) 両面は下地調整の上、仕上とする。 L O+Gは、グラスウール=50 (24K) 充填とする。
RD-T	たて引き用ルーフレッド (既存のまま、美装) RD-T 特記なき開口部はW T1とLスタッドはチドリ配置とし、グラスウール=50 (24K) 充填とする。
RD-Y	よこ引き用ルーフレッド (既存のまま、美装) DW 壁: 現場巻造りウレタンフォーム吹付t=50 最上層スラブ: 既存フォームポリスチレンt=25打込 (アンカー撤去跡等はウレタンフォーム吹付にて補修)
TD	壁: 配管用鋼管 (径は図示による) 特記なきは100とする。 (建物内は防露材)
特	特定防火設備 (常時閉鎖式) E 電気錠
特S	特定防火設備 (常時開放・煙感知器連動自動閉鎖ｽﾀﾝﾄﾞなし) ▼ 「非常用進入口に代わる窓」の標示
防	防火設備 (ガラリはFD付) ㊦ 点字舗を示す。 (撤去・新設)

改修 凡例

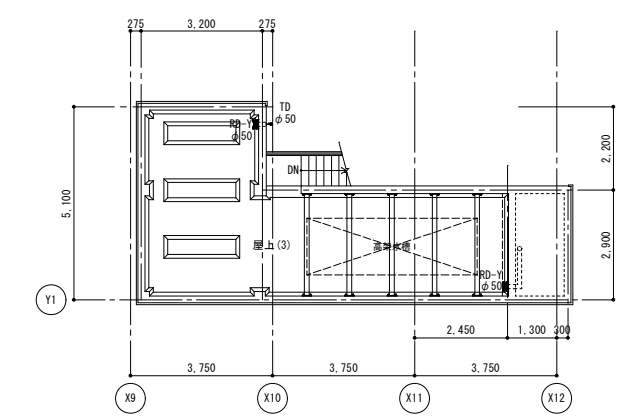
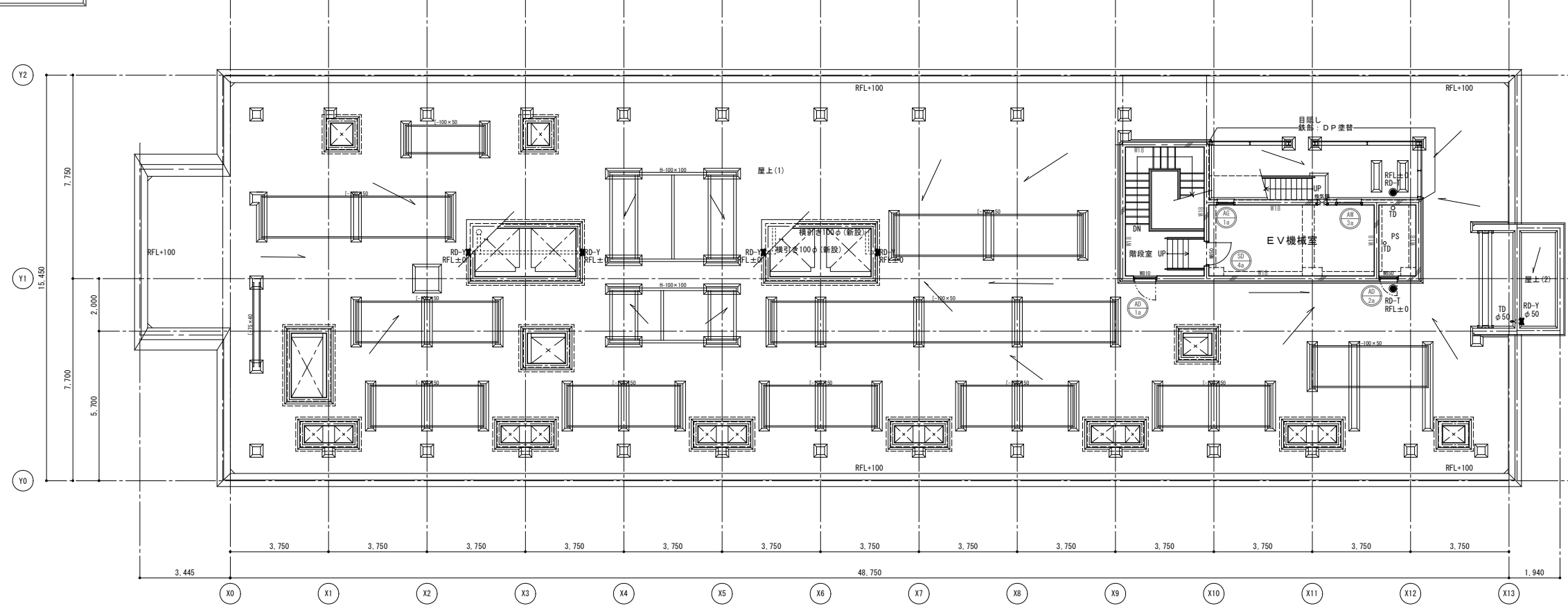


改修前 屋上・PH階平面図



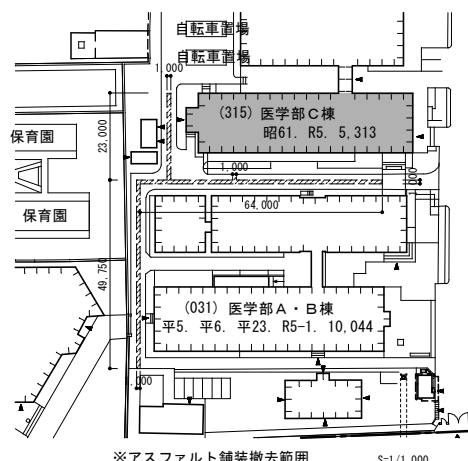
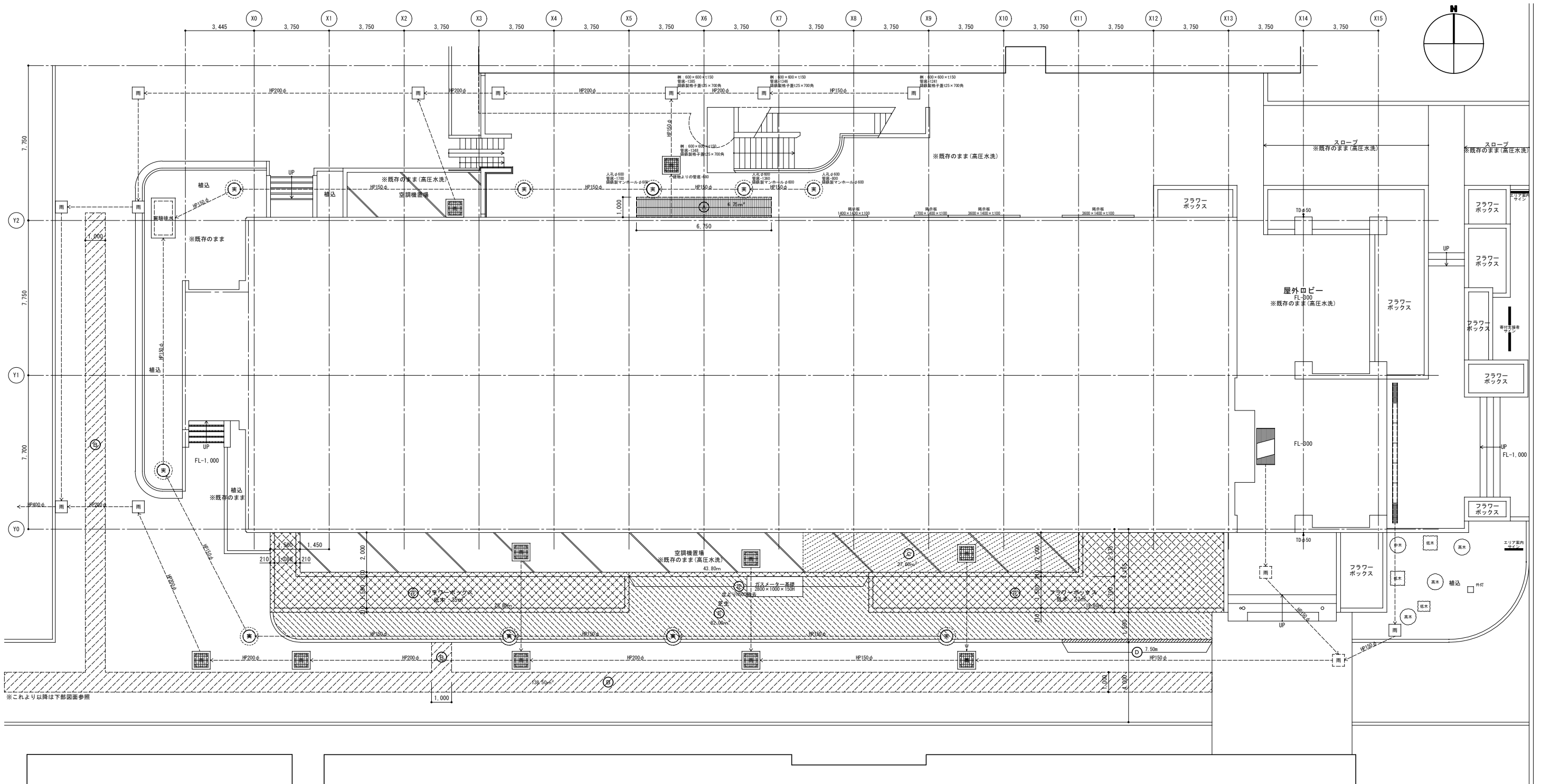
- 撤去凡例**
- : RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。ALCはALCパネル=100×GL (工法)を示す。)
 - : 仕上撤去範囲を示す。
 - : 部分撤去範囲を示す。
 - : の範囲は工事範囲外を示す。
 - : 間仕切壁、部分撤去範囲を示す。(WOOは壁種別を示す。)
 - : (LGS1: GB-Rt=12.5+9.5片面、157'下まで示す。)
 - : (LGS2: GB-Rt=12.5+9.5片面、天井まで示す。)
 - : (LGS3: GB-Rt=12片面、天井まで示す。)
 - : (ALC: ALCパネル=100×GB-Rt12 (GL工法)、157'又は梁下まで示す。)
 - : ※内断はALC床地とする。
 - : 撤去建具を示す。(Oは特見込を示す。)
- 各室1ヶ所 : 撤去 サイン (L200×H 80×アクリルt=5突出)
 各棟所1ヶ所 : 撤去 ビクトサイン (L200×R200×アクリルt=5平付)
 ※配管・ダクト類及び配線等の撤去は設備工事とする。
 ※手洗い・洗面器等衛生陶器撤去は機械設備工事とする。

改修後 屋上・PH階平面図



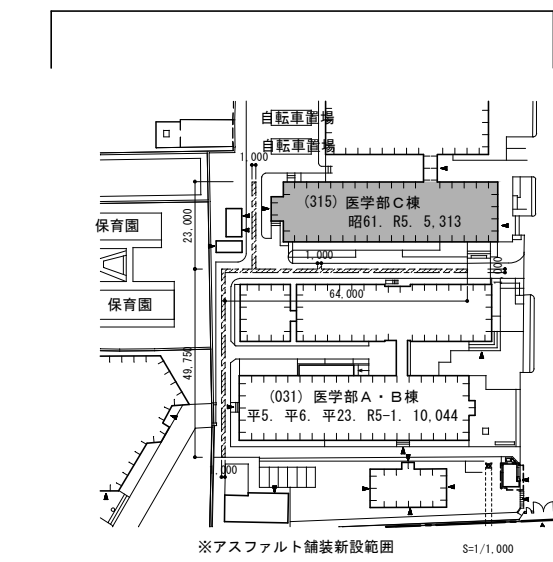
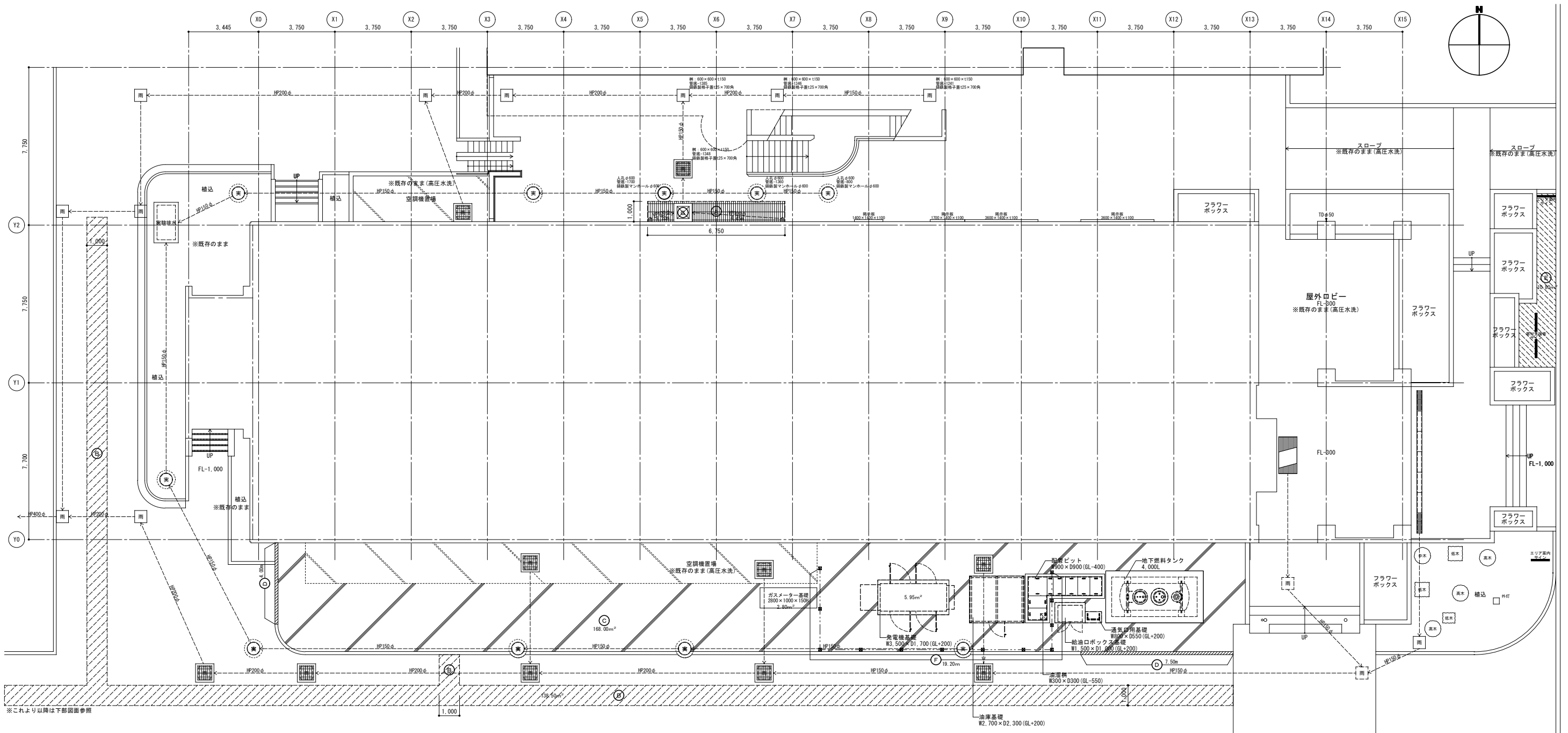
- 改修凡例**
- : RC壁、柱 (WOOはRC壁厚を示す。)
 - : 改修範囲を示す。
 - : 部分改修範囲を示す。
 - : の範囲は工事範囲外を示す。
 - : 間仕切壁、部分新設範囲を示す。(Lは壁種別を示す。)
 - : 新設建具を示す。(Wはガラス種別、Oは特見込を示す。)*特記なきは建具表による。
 - : 既存建具改修を示す。
- ※手洗い・洗面器等衛生陶器新設は機械設備工事とする。
 (排水コア抜き共)

工事名 京都大学(南部)総合研究棟(医学部C棟)改修その他工事		図面番号
図面名称 屋上階平面図(改修前後)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月
		9



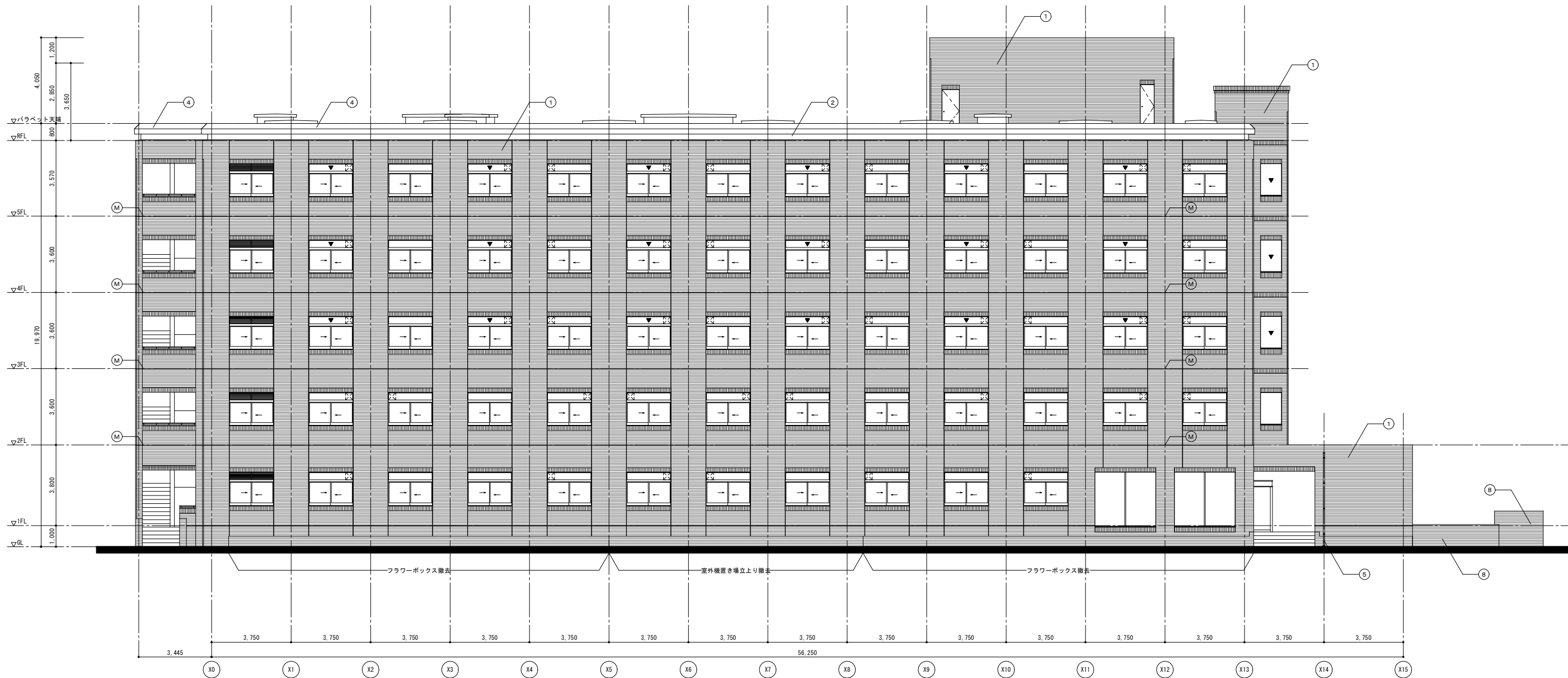
撤去凡例 ※屋外ロビー等は高圧水洗とする。

記号	名称	備考	参考数量
(A)	せっき質レンガタイル張り撤去 (長手張り)	t=50+土間スラブt=150	6.75㎡
(B)	アスファルト舗装撤去	t=50	138.50㎡
(C)	土間コンクリート撤去	t=150	27.60㎡
(D)	縁石撤去	地先境界ブロック:150×150×600	7.50m
(E)	芝生撤去		82.00㎡
(F)	フラワーボックス撤去	立上り: H=500×D210 低木ツツジ類: H=1.0(5株/㎡) (伏挿・伏植)	87.02m 62.00㎡



凡例 ※屋外ロビー等は高圧水洗とする。

記号	名称	備考	参考数量
①	けっき質レンガタイル張り新設 (長手張り)	t=50+土間スラブt=150	6.26㎡
②	アスファルト舗装新設	t=50	138.50㎡
③	土間コンクリート新設	t=150	168.00㎡
④	縁石新設	地先境界ブロック:150×150×600	11.50m
⑤	芝生新設	ベタ張:コウライシバ	10.80㎡
⑥	メッシュフェンス新設	H=1800(ベースプレート共)	19.20m
⑦	雨水樹新設	600×600(鉄製製格子蓋共)	1ヶ所



南面 立面図 S=1/100

タイル面 集計表 (参考数量)

名称	仕様・形状	数量	南面	北面	東面	西面	合計
ひび割れ (幅0.2以上~1.0以下)	自動式低圧エポキシ樹脂 注入工法	m数	1.5 m	1.5 m	1.5 m	1.5 m	6.0 m
欠損 (㎡)	タイル部分強替え工法 ポリマーセメントモルタル	㎡数	3.0 ㎡	2.0 ㎡	1.0 ㎡	1.0 ㎡	7.0 ㎡
浮き部	タイル部分強替え工法 ポリマーセメントモルタル	㎡数	2.0 ㎡	2.0 ㎡	2.0 ㎡	2.0 ㎡	8.0 ㎡

コンクリート面：屋外階段内側及びPH階北面、東面一部 集計表 (参考数量)

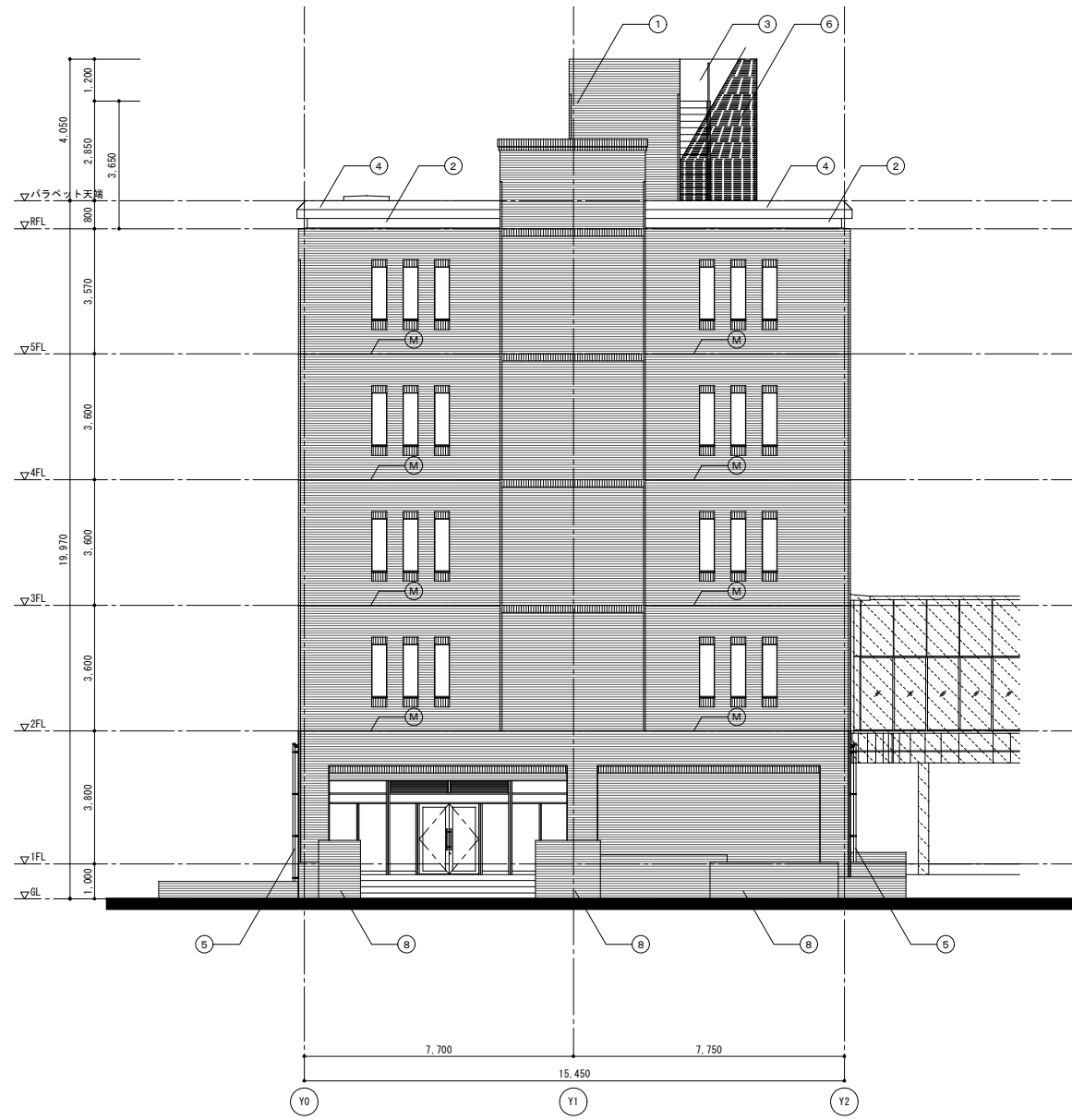
名称	仕様・形状	数量	南面	北面	西面	東面	合計
欠損 (㎡)	充填工法	㎡数	0.2 ㎡	0.2 ㎡	0.2 ㎡	0.5 ㎡	1.1 ㎡
ひび割れ	Uカットシーリング材 充填工法	m数	3.0 m	3.0 m	5.0 m	5.0 m	16.0 m

※「外部足場設置後、外壁面の事前調査(目視や打診による確認作業、マーキング、計測、図面記入)を行うこと」

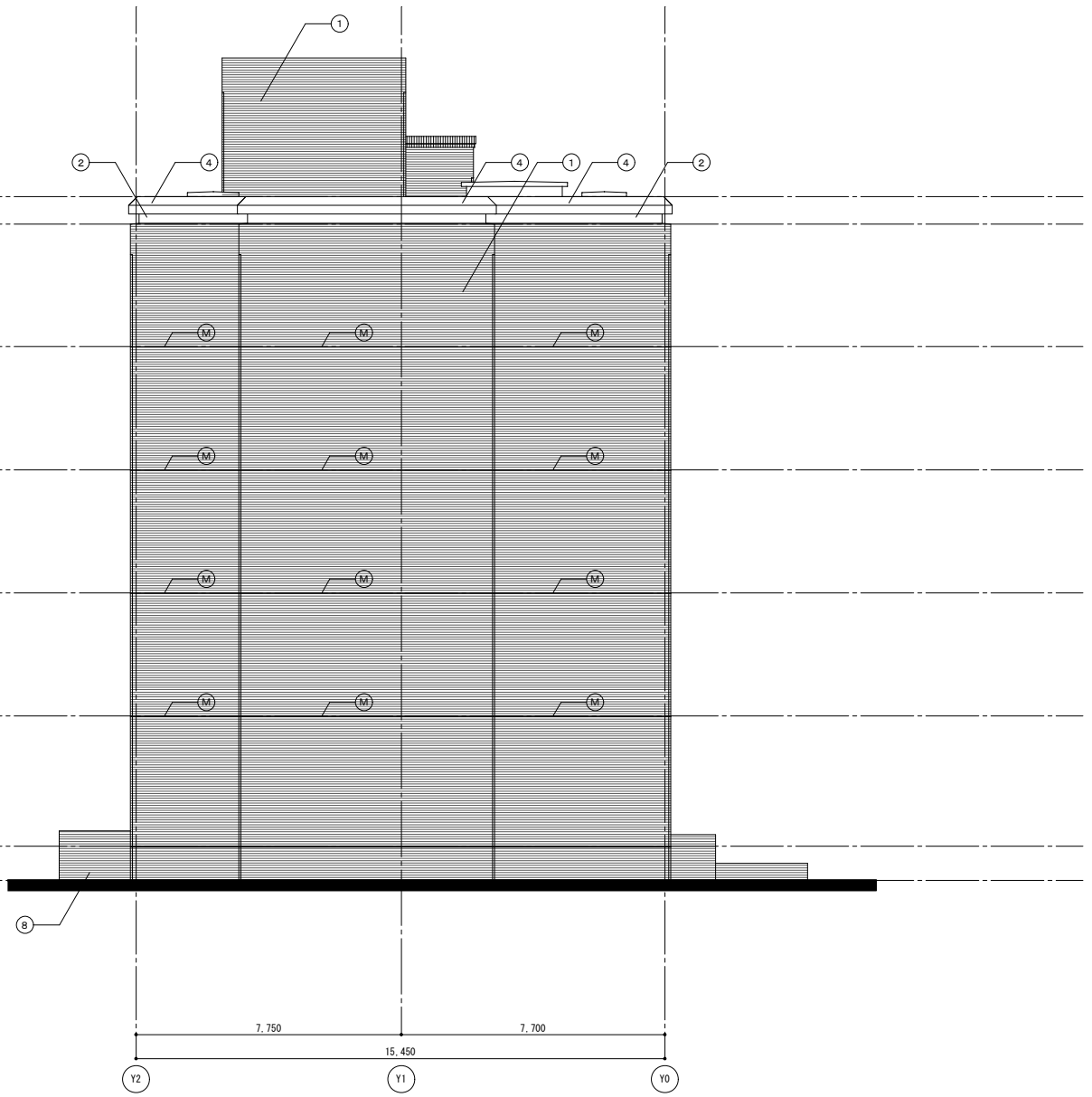
：の範囲は工事範囲外を示す。

記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例	記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例
①	せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗、コンクリート含浸防水材塗布	⑥	屋上目隠し：L-30×30×3 FE	鉄部はすべて、DP塗装
②	コンクリート打放しの上、アクリルクリアー吹付	高圧水洗、下地調整の上、フッ素樹脂吹付	⑦	屋外階段目隠し：FB-32×4.5 チュラクロン焼付	鉄部はすべて、DP塗装
③	コンクリート打放しの上、複層塗材E	高圧水洗、下地調整の上、複層塗材E	⑧	フラワーボックス：せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗
④	ボンデ鋼板t=2.3加工チュラクロン焼付	既存のまま、塗装	⑨	伸縮目地：ポリサルファイドシーリング20×10	シーリング撤去・新設
⑤	壁種：SGPφ50 SOP(組み金物：φ1,200内外)	DP塗装	▼	「非常用進入口に代わる窓」の標示	標示シール撤去・新設

工事名	京都大学(南部)総合研究棟(医学部C棟)改修その他工事			図面番号
図面名称	立面図(1)(改修前後)	縮尺	A1:1/100 A3:1/200	設計日
			令和8年7月	12



東面 立面図 S=1/100



西面 立面図 S=1/100

記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例	記号	改修前 仕上凡例	改修後 仕上凡例
①	せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗、コンクリート含浸防水材塗布	⑥	屋上目隠し：L-30×30×3 FE	鉄部はすべて、DP塗替
②	コンクリート打放しの上、アクリルクリヤー吹付	高圧水洗、下地調整の上、フッ素樹脂吹付	⑦	屋外階段目隠し：FB-32×4.5 デュラクロン焼付	鉄部はすべて、DP塗替
③	コンクリート打放しの上、複層塗材E	高圧水洗、下地調整の上、複層塗材E	⑧	フラワーボックス：せつ器質レンガタイル張り	高圧水洗
④	ボンデ鋼板t=2.3加工デュラクロン焼付	既存のまま、美装	⑨	伸縮目地：ポリサルファイドシーリング20×10	シーリング撤去・新設
⑤	壁礎：SGPPφ50 SOP(掘み金物：φ1.200内外)	DP塗替	▼	「非常用出入口に代わる窓」の標示	標示シール撤去・新設

工事名 京都大学（南部）総合研究棟（医学部C棟）改修その他工事		図面番号	
図面名称 立面図(3) (改修前後)	縮尺 A1:1/100 A3:1/200	設計日 令和8年7月	14